

## 朝の礼拝

聖書 マルコによる福音書 2章 23-28節 (新約聖書 64頁)

23 ある安息日に、イエスが麦畑を歩いて行かれると、弟子たちは歩きながら麦の穂を摘み始めた。 24 ファリサイ派の人々がイエスに、「御覧なさい。なぜ、彼らは安息日にはしてはならないことをするのか」と言った。 25 イエスは言われた。「ダビデが、自分も供の者たちも、食べ物がなくて空腹だったときに何をしたか、一度も読んだことがないのか。 26 アビアタルが大祭司であったとき、ダビデは神の家に入り、祭司のほかにはだれも食べてはならない供えのパンを食べ、一緒にいた者たちにも与えたではないか。」 27 そして更に言われた。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。 28 だから、人の子は安息日の主でもある。」

安息日は、人のために ～最も大切な目的～

今、6年生、高校3年生の多くは部活動を引退し、具体的な大学進学という目標を意識し始めていると思います。しかし大学在学中に成人し、卒業後は社会人となりますから、自分自身の将来だけでなく、これからの時代や社会を考え、より広く、深く、長く、自分の人生の目的を意識することが大切でしょう。

そもそも目標と目的は違います。目標というのは近い将来の具体的なゴールです。一方、目的はもっと長い、生涯に渡るより大きなビジョン、生きがい、ライフ・ワークです。でも私たち人間も動物ですから、どうしても「今、ここで、私」にとってよければいいという考えに流されがちです。

イエスと弟子たちが麦畑を歩いていました。弟子たちは麦の穂を摘み始めました。実はこれは盗みではありません。律法に「隣人の麦畑に入るときは、手で穂を摘んでもよい」とあるように、麦の穂を摘むことは貧しい人たちに許されていました。ところが、ファリサイ派の人たちはこの日は神様に感謝を献げる『安息日』だから、

一切の労働をしてはいけない日のはずではないか、麦の穂を摘むだけでもいけない、あなたの弟子たちは罪を犯しているとイエスと弟子たちを批判しているのです。

するとイエスは「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主である。」と答えました。安息日が大切だからと言って、貧しい人たちへの思いやりを忘れては本末転倒ではないかと言っているのです。安息日は大切です。でも安息日を守ることだけが目的になっていないか、「あなたの神である主を愛し、隣人を自分のように愛しなさい。」という最も大切な目的を見失っていないかと諭しているのです。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたは私たち、英和に「愛と奉仕」という人生の目的を与えて下さいました。どうか今日一日も互いに励まし合い、仕え合い歩ませて下さい。また、今、様々な理由で就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうかその艱難を耐え、あなたの慈しみを悟り、共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与えて下さい。主イエス・キリストによってお願い致します。 アーメン